



ギター譜の点訳の手引き(凸面)

楽譜点訳の会「星」

2008 年 1 月 12 日

前書き

ギターは6本の弦を張った楽器で、左手でフレット¹間の指板を押さえ右手で弦を弾くことにより音をだします。ある音に対してフレットが指定されれば弦が決まり、弦が指定されればフレットが決まります。非常にポピュラーな楽器で、楽器としてのギターの種類も多様であり、音楽のジャンルもクラシック、フォルクローレ、ジプシー音楽、ポップス、ジャズなど多岐にわたります。過去においては正統なクラシック音楽の楽器として扱われなかったこともあり、五線楽譜の表記方法が余り統一されていません。

この手引きには点訳方法の目安を記しますが、楽譜によっては奏法を理解したうえで点訳方法を工夫する必要があります。

その他の特徴としては

記譜通りに点訳しますが、実音は1オクターブ下の音程となります。

音符法 1 または音程法を使用し、基準音は最高音とします。本手引きは音符法 1 を使用。

パート名の略記号は 「 $\begin{smallmatrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$ 」 とします。

1. 弦記号



音	E	A	D	G	B	E
弦	6 弦	5 弦	4 弦	3 弦	2 弦	1 弦
弦記号	⑥ VI	⑤ V	④ IV	③ III	② II	① I
点字表記	$\begin{smallmatrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$	$\begin{smallmatrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$	$\begin{smallmatrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$	$\begin{smallmatrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$	$\begin{smallmatrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$	$\begin{smallmatrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$

- 弦記号は音列記号の規則に影響を及ぼさない。
- 弦記号は連続の表記ができる。音符が4つ以上の場合に用い、次の音符に他の弦記号がある場合は「止め」の弦記号を省略する。

ギターの調弦には主に二つのバリエーションが見られる。曲の始まる前に1行使って5マス目に記す。

1) 五線譜上の表記 : 6=Re、6=D、6th string=D、⑥=D など

⑥=D



6弦をレに調弦

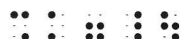


2) 五線譜上の表記 : 5=Sol、5=G、5th string=G、⑤=G など

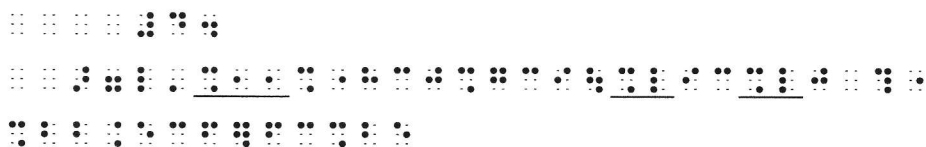
⑤=Sol



5弦をソに調弦



譜例 : 弦記号



2. フレット/ポジション記号²

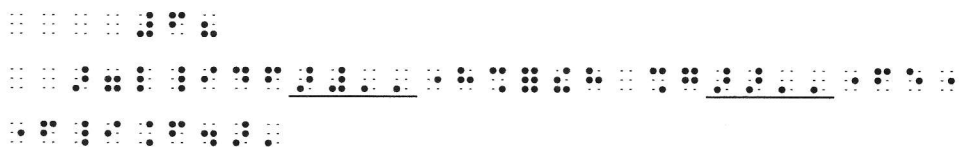
記号の一覧表

フレット/ ポジション記号	点字 (凸)
I 1	⠠ ⠠
II 2	⠠ ⠠
III 3	⠠ ⠠
IV 4	⠠ ⠠
V 5	⠠ ⠠
VI 6	⠠ ⠠
VII 7	⠠ ⠠ ⠠
VIII 8	⠠ ⠠
IX 9	⠠ ⠠ ⠠
X 10	⠠ ⠠ ⠠

フレット/ ポジション記号	点字 (凸)
XI 11	⠠ ⠠ ⠠
XII 12	⠠ ⠠ ⠠
XIII 13	⠠ ⠠ ⠠
XIV 14	⠠ ⠠ ⠠ ⠠
XV 15	⠠ ⠠ ⠠ ⠠
XVI 16	⠠ ⠠ ⠠ ⠠
XVII 17	⠠ ⠠ ⠠ ⠠
XVIII 18	⠠ ⠠ ⠠ ⠠
XIX 19	⠠ ⠠ ⠠ ⠠
XX 20	⠠ ⠠ ⠠ ⠠

- フレット/ポジション記号は ⠠ を前置して表す用語と同様の扱いをする。従って、フレット/ポジション記号の後には音列記号が必要。1、2、3の点の何れかが次に来る場合は記号の後に3の点を付す。
- フレット/ポジション記号は連続の表記が出来る。音符が4つ以上の場合に用い、次の音符に他のフレット/ポジションがある場合は「止め」の記号を省略する。
- 14 フレット以上のフレット記号は会独自の表記なので、必要に応じて凡例に記す。
- 五線譜上の表記でフレット移動(左手の移動)を表す短線は通常点訳しない。
(注: 明示的にグリッサンドと書かれているか、波線で書かれている場合は点訳する。)
(譜例: 指記号3)
- フレット/ポジション記号と弦記号は共にローマ数字で記される事があるので注意する。

譜例：フレット/ポジション記号

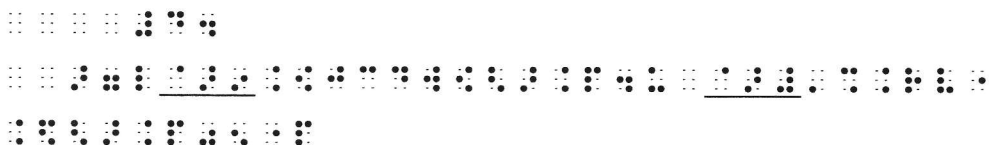
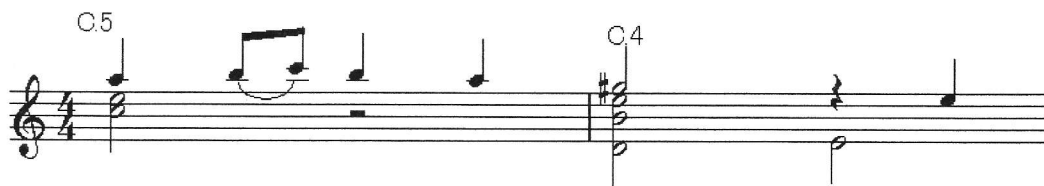


3. セーハ³

五線譜上の表記: C5、CIII、B3、1/2 C 1、♢ 5 などセーハ記号 C (B、♢) とフレット/ポジション記号と一緒に記される事が多い。縦のカギカッコで記される事もある。

- セーハはセーハ記号 ♢ をフレット/ポジション記号の前に記して表す。
フレット/ポジション記号の無いセーハは ♢ ♢ のみを記す。
- 点線や直線でセーハの範囲が記されている場合は、通常は初めの音符の前の方にセーハを記す。(譜例：2)
- 複声部に渡るカギカッコのセーハは各声部にセーハを記す。
- 全(大)セーハと半(小)セーハは単一のセーハ記号を用いる。

譜例：セーハ(1)



譜例：セーハ(2)

$\begin{array}{ccccccc} \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \end{array}$

譜例：セーハ(3)

$\begin{array}{ccccccc} \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \end{array}$

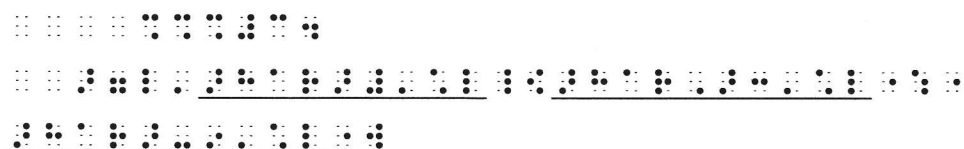
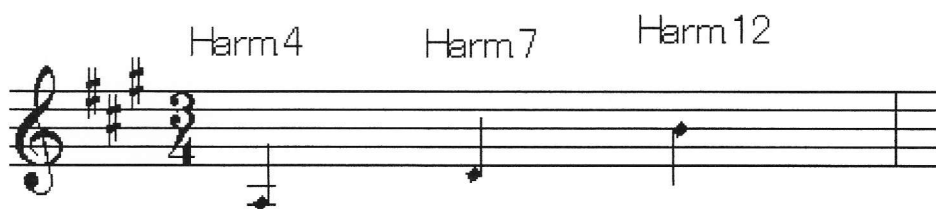
4. ハーモニクス⁴

五線譜上の表記：「har.」「arm.」「natural harm.」「Art. Har.」「Oct. Har.」「arm. 8va」「Harm. 8dos」など。

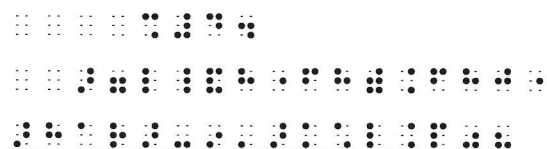
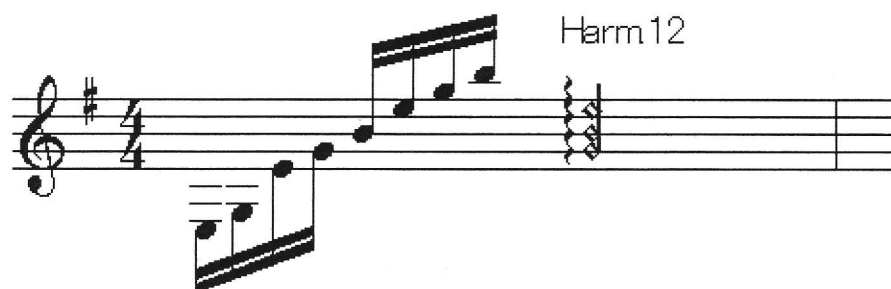
- ハーモニクスは全て「har.」 $\begin{array}{cccc} \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \end{array}$ （ $\begin{array}{cc} \cdot & \cdot \end{array}$ ）で記す。
- har. の3の点は必要だが、続いてポジション記号がある時のみ省略する。
- ハーモニクスは連続の表記が出来る。音符が4つ以上の場合に用い、次の音符に他のハーモニクスがある場合は「止め」の記号を省略する。
- 菱形の音符は $\begin{array}{cc} \cdot & \cdot \end{array}$ を音符の前に記し、菱形の音符が4つ以上の場合から連続の表記が出来る。

$\begin{array}{ccccccc} \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \sim & \sim & \sim \\ \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \end{array}$

譜例：ハーモニクス（１）



譜例：ハーモニクス（２）



（注） 菱形の音符と丸形の音符で構成されている和音は部分け法で点訳する。

譜例：ハーモニクス（3）



5. 指記号

● 左手指記号

	記譜	点字
開放弦（押さえない）	0	⠠
人差し指	1	⠨
中指	2	⠩
薬指	3	⠪
小指	4	⠫

● 右手指記号

	記譜	点字
親指	p(pulgar)	⠫ ⠠
人差し指	i(indice)	⠨ ⠠
中指	m(medio)	⠩ ⠠
薬指	a(anular)	⠪ ⠠
小指	c(chico)	⠫ ⠠

（注）6の点の前置は左手指記号がある場合のみ省略する。

譜例：指記号（1）

● ●	● ●	● ●	● ●	● ●	● ●
● ●	● ●	● ●	● ●	● ●	● ●
● ●	● ●	● ●	● ●	● ●	● ●

譜例：指記号(2)

[illegible][illegible]

譜例：指記号(3)

[illegible]

注)フレット移動の直線は点記しない

6. ストローク

ダウnstローク: 上向き矢印付の縦の直線 (又は波線)、ダウnのボーイングの記譜 (n)、短い下向き矢印付の縦の直線 (↓) など。

• • • • •

アップストローク:下向き矢印付の縦の直線（又は波線）、アップのボーイングの記譜（V）、短い上向き矢印付の縦の直線（↑）など。

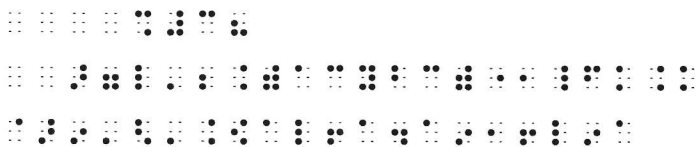
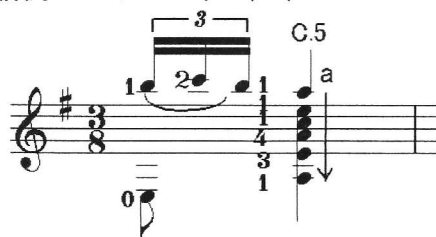
● - ● - ●
● - ● - ●
● - ● - ●

- 矢印付の直線と波線を書き分ける必要がある場合には工夫を要する。
- 五線譜上の矢印の向きと演奏上のストロークの向きは反対になる。

譜例：ストローク（１）

Figure 1. The 100 most frequent words in the 1000 word corpus. The words are arranged in three rows. The first row contains 33 words, the second row contains 33 words, and the third row contains 34 words. The words are arranged in descending order of frequency, with the most frequent word at the top left and the least frequent word at the bottom right.

譜例：ストローク（２）

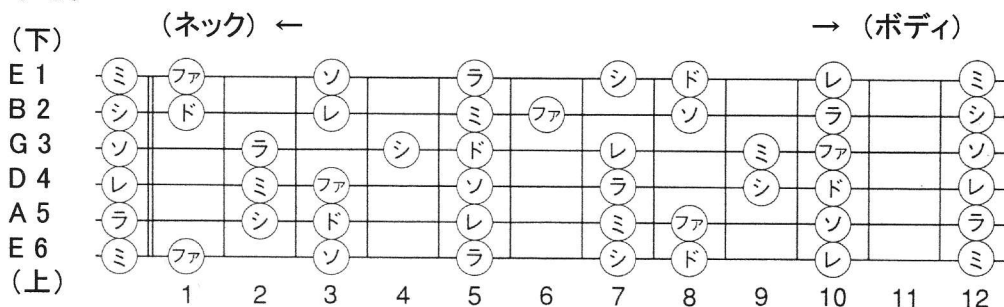


7. 点訳順序の目安

1. 言葉で表記するもの
2. 強弱（f p 松葉等）
3. ハーモニクス（h a r .）
4. セーハ記号
5. フレット/ポジション記号
6. 弦記号
7. ストローク記号
8. 奏法記号（アクセント、スタッカート、アルペジオ等）
9. 菱型の音符を表す記号
10. 音符
11. 左手指記号
12. 右手指記号
13. スラー

（添付図）指板（フレットボード）の上の音の手引き

各弦のポジションをドレミで表した。指板上の音を特定する際の手引きとして使用する。



¹ フレットは指板に埋め込まれている金属の棒のこと。弦を押さえるとその押さえた位置よりもブリッジ側にあるフレットがナット代わりになって音程を決定する。

² フレット記号またはポジション記号はギター楽譜上に書かれているフォームポジションを示す番号のこと。フレット/ポジション番号ともいう。大抵は人差し指のセーハの位置を示すときの多く使われるが、単音の場合でもスケールフォーム位置(左手のおおよその位置)を示すために使用されることがある。

³ セーハとは左手で弦を押さえるときに指を寝かせて、複数の弦を同時に押さえる技術のこと。同時に押さえる弦の数で、小(半)セーハ、大(全)セーハと呼ぶこともある。

⁴ ハーモニクスとは倍音のこと、あるいは倍音を出す奏法のことをいう。弦長を $1/2$ にするポイントで2倍の周波数(1オクターブ上)の倍音、弦長を $1/4$ にするポイントで4倍の周波数(2オクターブ上)の倍音を発生する。ハーモニクスは更に自然ハーモニクスと技巧(人工)ハーモニクスに分類される。自然ハーモニクスは、開放弦に対して行うハーモニクス奏法のこと。ナットとサドルの間の弦を2等分(1:1)、3等分(1:2または2:1)、4等分(1:3または3:1)する位置のハーモニクスがしやすい。技巧(人工)ハーモニクスは開放弦のハーモニクスではなく、左手で弦を押さえた位置に対して行うハーモニクス奏法のこと。押さえた位置+5フレット、+7フレット、+12フレットあたりが、音が出やすいし、音程も確かである。